



兼金沼湿原（別海町）で調査中の筆者。画像提供：水島未記氏（北海道博物館）

北海道東部の無名湿原を歩く

北海道湿地踏査団 齋藤 央

北海道は日本の湿地総面積の86%が集中する湿地の宝庫で、とりわけ道東地区には釧路湿原、霧多布湿原、野付湾、濤沸湖など数多くのラムサール条約湿地が存在します。その一方で、保護の対象となっていない湿地での開発行為はすさまじく、とくに近年は数多くの湿原が調査どころか命名すらされぬまま次々にメガソーラーの下敷きになっています。

2021年7月に、別海町中心部市街地の北縁で小規模ながら非常に良好な環境の湿原に遭遇しました。宮舞町湿原と命名されたこの湿原の詳細やその後の経緯は、宮舞町湿原を大切に思う会（現・別海町の湿原を大切に思う会）の

金澤裕司会長がニュースレター16号で述べておられます。残念ながら、地権者の埋め立て利用の意思は固く、絶滅危惧II類のムセンスゲの自生地を避けつつも土砂の搬入が進行しております。

貴重な湿原が調査保全が間に合わず開発の犠牲になる悲劇を再発させないためには、可及的速やかに湿原の実態を明らかにして官民各方面と共有することが不可欠と考え、別海町別海地区や近隣地域の面積約5ha以上の湿原の中から宮舞町湿原に似た環境と推察される湿原を抽出し、植物相を中心とした緊急調査を行いました。

2022年度には前田一歩園財団と北海道新聞野生生物基金の助成を受け、2023年度も含めて別海町内22カ所、標津町内2カ所の湿原を踏査しました。ほぼ全ての湿原が宮舞町湿原と同様にホロムイソウ、コタヌキモ、ヤチスゲ、ワタスゲ、ミツガシワ、モウセンゴケなどに富む中層～高層湿原で、生物多様性保全の観点から無視すべからざる存在であること、とりわけムセンスゲの自生地が別海町内9カ所・標津町内2カ所です。新たに見つかり、根室海峡沿岸が国内で最もムセンスゲ自生地が集中する「ムセンスゲベルト」であることが判明しました。

別海町で数多くの自生地が見つかったムセンスゲについてさらに調べているうち、環境省のウェブサイトに『いきものログ』で浜中町姉



別海湿原05（仮称）のムセンスゲ

別付近でのムセンスゲの記録を発見しました。空中写真で判読した姉別川（風蓮湖に注ぐ風蓮川の支流）南岸の姉別湿原（仮称）を2023年5～7月に5回にわたって踏査した結果、ムセンスゲの再発見には至らなかったものの、延長約1.6kmに及ぶハナタネツケバナ（絶滅危惧IB類）の新自生地を発見しました。国内ではハナタネツケバナは北海道東部のオホーツク海沿岸（濤沸湖）や太平洋側（白糠町恋間湿原、釧路湿原、厚岸町、浜中町霧多布・幌戸沼）でのみ知られており、姉別湿原（仮称）は他のどの自生地よりも東に位置し、かつ根室海峡に通じる水系では初の発見となります。

幾つかの湿原では、北海道大学総合博物館の大原昌宏副館長の研究チームや北海道博物館の水島未記学芸員との合同調査が実現しました。昨年度の調査結果は報告書にまとめ、別海町役場、環境省北海道地方事務所、釧路自然環境事務所などに提供しました。姉別湿原（仮称）については現時点の知見を植物相リストと略図にまとめ、環境省北海道地方事務所、釧路自然環境事務所へ提供しました。ムセンスゲ、ハナタネツケバナ、カシスゲ（絶滅危惧IB類）は確認した全ての湿原で標本を採集し、北海道大学総合博物館陸上植物標本庫（SAPS）に寄贈しました。

私が昨年来調査の対象にしている湿原は、現時点では一部が保安林に指定されている程度で、行政によって系統的な自然保護の対象とされている湿原は皆無です。野付・風蓮・根室半島エリアの国定公園指定が検討される中で、一部の湿原が指定区域案に含まれているものの、半数以上が環境省指定の重要湿地から漏れており、先行研究に頼った文献調査では7割以上の湿原が取りこぼされて国定公園指定を逃す恐れがあります。これらの湿原全てが然るべき形で保全され、今後の研究の対象としても注目されることを切望しつつ、2024年以降も調査を続けていこうと考えております。



姉別湿原（仮称）のハナタネツケバナ

育み守ってきた谷津田を次世代につなげていくには

千葉県・下大和田谷津田の保全

千葉県環境情報センター 小西由希子

千葉県内では約4300種の野生動物植物が確認され、多くが谷津田や里山で見られることから「谷津田の保全」が重点施策に位置づけられています。私たちのワールド下大和田(猿橋地区)谷津田も「景観、動植物の生息環境等を特に重点的に保全すべき区域」とされ、環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」選定地となっています。

ここは、昭和40年代に土地区画整理事業が計画され用地買収が始まりました。その後頓挫し、虫食いの買収された土地が放置されて現在に至っています。田は泥深く、米作り農家は一軒しかありません。しかし、豊かな湧き水にミネダカやニホンアカガエル、ヘイケボタルなど多くの生きものが生息しています。私たちは1996年から活動を始めました。自然観察会やごみひろい、米作り、森と水辺の手入れを続け、幼児・小学生、高校生・専門学校生、大学

生、現役世代から年配者まで幅広い参加があります。

今ここに地元企業による開発が計画されています。今年4月、千葉市が市街化調整区域の大規模物流施設の立地基準を緩和したことでも引き金になっています。広さは約76ha、本年4月26日に環境影響評価方法書(以下方法書)が公示され、9月1日に市長意見が発出されました。

事業予定地の利点は東金有料道路路中野ICに近いことですが、道路・上下水道・ガス・電気などすべてのインフラが未整備で、住民の高齢化も進んでいます。

方法書説明会には地元に加え米作り参加者の親子連れなど多くの市民が参加しました。また方法書への市民意見では、55人が皆自分の言葉で思いのこもった意見を提出しています。市長も「事業計画の見直しを含めた慎重な検討が必要」と指摘し、森林の役割にも触れ、配慮

を要請するなど厳しい意見を出しています

このような中、今年2月、暗視カメラでキツネが確認されました。千葉市レッドリストで消息不明・絶滅生物とされ、35年ぶりの発見です。さらに、ヒクイナや環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類のミゾゴイも発見され、生物多様性の豊かさや貴重さが改めて認識されたところです。

事業計画地を含めここには谷津田と台地(畑や牧草地、荒れた山林)を合わせると130ha以上の緑が残っています。政令市千葉市にとって、100haを超えるまとまった緑が残っていることはいまや奇跡とも言えます。どんな



暗視カメラに写ったアカギツネ

なに日照りが続いても湧き水は涸れたことはなく、さらにこの水は鹿島川を流下して印旛沼に入り、市民県民の飲料水源ともなっているのです。

イノシシが闊歩して荒れていく森を何とかしたいと考える地主さんのお気持ちも理解できますし、ずっとこのままよいとは思いません。地元でも開発を望むと望まない両方の意見があると聞いてい

ます。今後は事業者、行政、地元と私たち市民団体も入った協議会を立ち上げて、さまざまな立場であり方を考えていく努力が必要ではないかと考えています。

昨年度から私たちは、この地区で米作りを長く続けていたために、お米を共同購入させていただくことにしました。皆さまもぜひお力をお貸しください。よろしくお願いいたします。

意見書「美佐野ハナノキ湿地群の保全を求める」を提出

ラムネットJ理事(沖繩・開発問題部会) 陣内隆之

リニア建設の残土処分によ

って岐阜県御嵩町の美佐野ハナノキ湿地群が埋め立てられる計画について、ラムネットJでは、10月6日に意見書「湿地群の保全を求める」を岐阜県と御嵩町に提出しました。

意見書では、美佐野ハナノキ湿地群が残された貴重な湧水湿地であることを具体的に述べ、残土による埋め立てが湿地群を消滅・劣化させること、移植は保全にならないこと、地下水脈の流れの変化に伴う水枯れが懸念されることを指摘し、ラムサール条約の決議を引用しながら、岐阜県と御嵩町に対して、埋め立て計画の受け入れを拒否し湿地群の保全に全力を尽くすよう求めています。(詳しくは以下の意見書全文を参照してください。 <http://www.ramnet-j.org/2023/10/information/5985>。

記者会見も行いましたが、数社で記事になりました。少しは行政へのプレッシャーになったのではないかと思います。御嵩町では、地元町民も入れた審議会をつくり、白紙の状態から検討するとして、白紙の状態から検討するとして、守りつつ、地元のみならずと連携を図りたいと考えています。



御嵩町との面談



開発予定地(黄色で囲んだエリア)とその周辺 (Googleマップを改変)



下大和田谷津田(西側からの空撮) 撮影: 田中正彦



下大和田開発計画 作成: 小田信治



大阪南港野鳥園 (大阪府)

NPO法人南港ウェットランドグループ 和田太一



干潟に飛来したトウネンの群れ



ゴカイを捕食するメダイチドリ

大阪南港野鳥園は、大阪府住之江区の南港埋め立て地（咲洲）に整備された19・3haの野鳥公園で、大阪湾奥部に位置し、護岸を介して大阪湾に面しています。戦後に南港の埋め立てが進む中で生息地を追われていく水鳥を守る住民運動が1969年にはじまり、それを受けて大阪府が野鳥園の設置を決定し、1983年に開園した国内で最も古い人工干潟のひとつで、今年9月で開園40周年を迎えました。園内には干潟・ヨシ原・カキ礁・磯・汽水池など多様な湿地環境があり、展望塔や観察所から湿地に飛来した水鳥を観察できます。春・秋の渡りの季節にはメダイチドリやトウネンなどのシギ・チドリ類（これまで55種を観察）でにぎわい、冬場はツクシガモなど越冬のカモ

類やヘラサギ、ミサゴやチュウヒなどのタカ類も観察されます。干潟ではハクセンシオマネキなどの底生生物も200種類以上が確認されており、埋め立てによって干潟が大きく失われた大阪湾で貴重な生息地となっています。2001年には環境省の「日本の重要湿地500」に人工干潟としては唯一選定され、2003年には「東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ類重要生息地ネットワーク（現EAAF）」の参加登録地になるなど、国内外で重要な湿地として認められています。埋め立て地の中に造成された人工干潟は自然干潟とは環境条件が大きく異なります。干潟を覆う緑藻アオサの繁茂や減少、カキ礁の拡大、干潟表層部の泥の流出、地盤沈下などさまざまな環境変化や課題が出てきます。当NPOではモニタリング調査を行って常に環境を監視し、多くの生き物が利用できる環境を維持するための保全作業を行っています。来園者には渡り鳥や干潟の生き物の観察会、年間36回の野鳥ガイドを実施しているほか、地元の中・高校生が環境学習の場として活用しており、大阪市内で海辺の自然を知ることができる貴重な場所になっています。

「渡良瀬プロジェクト」始動します

ラムネットJ事務局長 後藤尚味



渡良瀬遊水地の活動場所の下見

ラムネットJは、小山市が事務局を務める「渡良瀬遊水地コウノトリ・トキ定着推進協議会」と協力して「渡良瀬プロジェクト」を実施します。このプロジェクトは渡良瀬遊水地とその周辺の水田において軽微な管理を行って、トキ、コウノトリをはじめとする生物の多様性を育む環境を創出すると同時に、コミユニケーション・能力養成・教育・参加・普及啓発（CEPA）を通じて、湿地の重要性を周知することを目的とするものです。2023年から2025年までの3年間実施し、その後7年間の湿地のモニタリングを継続して状況を報告します。プロジェクトは、「コウノトリ生息地管理」「農家との連携」そして「CEPAプログラム」の3つの柱から成ります。

1 コウノトリ生息地管理

主に第二調節池エリアを、国土交通省が掘削した後に、小型の掘削機を用いた軽微な管理活動を継続的にを行います。トキやコウノトリの餌となる多様な生き物が繁殖できるように表面に凹凸を付けたり、大雨が降った後にたまった堆積物を取り除いたりして、乾燥を防ぎます。

2 農家との連携

第二調節池の周辺に広がる水田は、コウノトリの捕食エリアになります。必ずしも、無農薬の農家ばかりではないものの、田んぼの脇にビオトープ（江）を設置してもらうことで生き物の生息数が格段に上がるため、毎年20軒ずつを目標に設置を呼びかけて、最終的には協力農家60軒を目指します。江の設置の他に冬季湛水「ふゆみずたんぼ」に協力してくれる農家も募集することになっています。3年後には6haの「ふゆみずたんぼ」を目指します。

3 CEPAプログラム

コウノトリ人工巣塔が立つ第二調節池周辺は、雑草とともに背の高いヨシ原がうっそうと茂



小山市役所での記者発表

っており、野鳥観察などの学習フィールドとして活用するためには、草を刈って人が歩けるよう道を整備する必要があります。また、草の成長速度は非常に早く、学習フィールドを維持するためには定期的に草刈りを続けていくことが必要です。こうしたメンテナンスが行われることにより、多くの方々が野鳥観察を楽しむことができます。加えて、小中学生向けの湿地教育副読本を地元の有識者などに協力を得て1年かけて作成し、地元の小中学生への配布を行います。第14回ラムサール条約締約国会議では、公教育部門に湿地教育を組み込む決議が採択されたこともあり、国内での学校教育への組み込みは条約の実施に貢献します。

* * *

これらの活動の実施に際しては、グローバルアジアパシフィック社からの支援をいただいています。



草刈り機のデモンストレーション

●日本ベントス学会主催の有明海再生シンポジウム「有明海の再生を科学的に考える〜豊饒の海を取り戻すために」が、11月4日（土）11時から浅草橋ヒュリックカンファレンスRoom4（東京都台東区）で開催されます。参加費は無料。オンライン参加も可能です。詳細はQRコードからウェブサイトを参照してください。



●第6回生物の多様性を育む農業国際会議（ICEBA）11月18日（土）19日（日）、あいばーと佐賀（新潟県佐賀市）にて開催。生物多様性を基盤とした地域循環型農業の確立と国内外への普及を目標としたシンポジウムです。今回は佐賀市の主催で、生きものに配慮した農業、有機農産物、SDGsや脱炭素を踏まえたことからの農業の形を考えます。参加

申し込みは10月31日（火）締め切りとなります。詳細はQRコードからウェブサイトを参照してください。



●関東エコロジカル・ネットワーク10周年シンポジウム「関東の空にコウノトリとトキが舞う！〜環境と治水の好循環・10年の歩みとこれから」が、11月23日（木・祝）13時30分から野田市役所8階大会議室（千葉県野田市）で開催されます。主催は同ネットワーク推進協議会。10年間の取り組みや成果を振り返り今後の展望を語り合います。オンライン視聴も可能。詳細はQRコードからウェブサイトを参照してください。



本紹介

●「引き裂かれた海」 諫早湾干拓問題のドキュメンタリー番組を担当したNHKのディレクター、吉崎健さんによる本。現地の漁民や農民な

ど「断断」され「対立」する人々の思いを丁寧に取材し、この問題の本質に迫ったレポート・ジュです。論創社刊、税別1800円。



計報

●立花一晃さん ラムネットJの元理事である立花一晃さんが、10月1日に87歳でお亡くなりになりました。立花さんは三番瀬を守る署名ネットワークや三番瀬のラムサール条約登録を実現する会の中心的なメンバーとして、三番瀬の保全に尽力されました。韓国やルーマニアで開催されたラムサール条約締約国会議にも参加。ラムネットJにおいても干潟や水田の分野で積極的な活動されました。



ラムサールCOP10（韓国）での立花さん（2008年）

久米島のホテル館周辺で水の生きものを探そう！
秋の生き物観察会

自然ゆたかな久米島の山と水流の中に生息する生きものを捕まえよう！ 捕まえた生きものは、講師の佐藤文保さんが名前やどんな場所を好んで暮らしているか、何を食べるかなど、詳しく教えてください。



- 日時：2023年11月3日（金・祝）9:30～12:30
- 場所：久米島ホテル館（沖縄県島尻郡久米島町）
- 対象者：親子（小学生～高校生まで）保護者同伴
- 参加費：一人1000円（入館料、弁当代含む）
- 申込方法：右のQRコードのウェブフォームからお申し込みください。
- 主催：ラムネットJ / 共催：久米島ホテルの会
- 詳細はラムネットJのウェブサイトをご覧ください。



※パタゴニア日本支社の環境助成金プログラムの支援を受けて実施します。

「田んぼ2030プロジェクト」にご参加ください

ラムネットJが主催している「田んぼの生物・文化多様性2030プロジェクト（田んぼ2030プロジェクト）」は、2013～2020年に実施した「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト」の後継プロジェクトです。田んぼの生物多様性だけでなく、地域ごとの田んぼの文化の多様性を育むことを目指し、生物多様性条約の国際目標に沿った「水田目標2030」を掲げて活動を行っています。

このプロジェクトでは、農家や農業関係者だけでなく、田んぼの生物多様性に関心を持つ一般市民、研究者、企業などにも幅広く参加を呼びかけています。参加登録していただくと、専用のメーリングリストに加入できるほか、ニュースレター「田んぼだより」（右写真）をお送りします。

詳しくは、田んぼ2030プロジェクトのウェブサイトをご覧ください。 <https://tambo10.org/>



「田んぼだより」第4号

ラムサール・ネットワーク日本 会員募集 !!

ラムサール・ネットワーク日本（ラムネットJ）の活動は、会員の皆様からの会費や、カンパ、助成金などでまかっています。ぜひ、ラムネットJのサポーター（一般賛助会員）になって会の活動を支援してください。もっと積極的に湿地保護にかかわりたい方は、会の運営や活動を担う一般正会員としての入会をお待ちしています。そのほか、団体や企業としての入会も可能です。詳しくは事務局までお問い合わせください。

会員の特典

機関誌「ラムネットJニュースレター」を送付するほか、会員限定のメーリングリストに参加できます。ラムネットJが主催する催しの参加費が割引になる場合もあります。

入会申込方法

●郵便振替 郵便振替用紙（払込取扱票）の通信欄に、ご希望の会員種別、お名前、住所、電話番号、Eメールアドレスをご記入の上、年会費をお振り込みください。一般銀行から振り込む場合は（払込取扱票への記入ができませんので）振り込み後に上記の申込事項をEメール、FAX、郵便等で右記の事務局までお知らせください。

●ウェブサイト 一般賛助会員、一般正会員については、ウェブサイトからオンラインでの入会も可能です。 <http://www.ramnet-j.org/join/> にアクセスし、「入会申込フォーム」に記入して送信してください。年会費は郵便振替でご送金いただくか、オンライン決済サイトSyncable（シンカブル）からクレジットカードで送金することも可能です。

振込先

ゆうちょ銀行 振替口座 00140-0-765702 ラムサール・ネットワーク日本
（一般銀行から）ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキョウ）店
当座預金 0765702 ラムサール ネットワークニホン

会員種別と入会申込金（年会費）

会員種別	正会員		賛助会員	
	総会での議決権があります		総会での議決権がありません	
一般	1口	5,000円	1口	2,000円
団体	1口	10,000円	1口	10,000円
特別	50,000円以上		30,000円以上	
企業	-		1口	100,000円

年会費（入会金）

年会費は毎年4月から翌年3月までの1年分です。入会初年度は、年度途中の入会でも入会金として1年分の会費をいただきます。2～3月に入会の場合、初年度の年会費（入会金）は無料となり、4月からの次年度の年会費としていただきます。

事務局

NPO法人 ラムサール・ネットワーク日本
〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11
青木ビル3F TEL/FAX 03-3834-6566
Eメール info@ramnet-j.org